

2024 年度の鉄鋼需要見通し

2023 年 12 月 20 日
一般社団法人 日本鉄鋼連盟

我が国経済／2024 年度は内需が緩やかに回復も、世界経済の減速が下押し

2023 年度 世界経済の減速や物価高のなかでも底堅く推移している。個人消費は、物価高による実質賃金が伸び悩んだことから回復は遅れている。また、設備投資は人手不足、DX、脱炭素やサプライチェーンの見直しなどへの対応として旺盛な需要があるが、世界経済の減速もあって投資を先送りする動きもみられている。他方で、輸出は、自動車半導体不足解消に伴い回復したほか、好調なインバウンド需要なども増加に寄与した。

2024 年度 内需主導による回復も、世界経済の減速が下押しとなる。個人消費は、賃上げによる実質賃金の改善により回復すると見られる。設備投資は、前年同様の理由による需要が見られるが、世界経済の減速が下押しとなる。他方で、輸出は、世界経済の減速などもあって、鈍化すると見られる。

鉄鋼需給／2024 年度の鉄鋼内需は前年度比で横ばい

2023 年度

鉄鋼内需 自動車向けを中心に回復も、全体では前年割れが見込まれている。建設業では、土木部門が国土強靱化5か年加速化対策などの需要があるが、資材価格高騰などもあって需要量の減少が見込まれている。建築部門では、首都圏を中心に大型案件が堅調である一方、人手不足や資材高による工事の見直しなどもあって中小案件では不振が続いている。製造業では、造船部門が手持工事量は十分に確保しているものの人手不足により起工量は前年割れが見込まれる。また、機械部門では、建機が堅調であるものの、生産用機械が外需減少により前年から落ち込んでいる。その一方、自動車部門では、半導体不足等の供給制約が解消するなか、生産活動が回復し、鉄鋼需要を牽引している。

鉄鋼外需 前年度比では増加が見込まれる。

粗鋼生産 粗鋼生産は前年度比で減少が見込まれる。

2024 年度

鉄鋼内需 前年との比較では横ばい圏内で推移する見通しである。建設業では、土木部門が国土強靱化対策による下支えも、資材高や人手不足などにより鋼材需要量は減少する見通し。建築部門では、住宅価格の高止まりなどを背景とした購買意欲の低下に影響され住宅着工が減少するほか、非住宅においては人手不足が継続することもあり、鋼材需要は減少すると見られる。製造業では、造船部門が高水準の手持工事量も、人手不足もあり前年並みで推移する。機械部門では、建機が高水準も前年との比較で減少し、工作機械も前年にはピークアウトしていることなどから、鋼材需要は減少する見通し。他方、自動車部門では 24 年度も受注残の解消分もあるとの予想から、前年度比で増加を見込む。

鉄鋼外需 前年並みに止まる見通し。

粗鋼生産 粗鋼生産は前年度比横ばいとなる見通しである。

リスク ロシア・ウクライナ戦争や中東情勢の緊迫化による資源燃料価格の高止まり、中国経済の動向、内外の金融政策の動向

粗鋼生産の推移

